

お茶のルーツ(歴史)

【お茶の起源】

茶の発祥地は中国と言われ、もともと薬、解毒剤として用いられていました。「お茶を一服」という言葉はこれに由来すると言われてます。

本草学の始祖、今日の漢方薬の基礎を築いたとされる神農帝が山野を駆け巡り人間に適する野草や樹木の葉などの良否をテストするため、1日に72もの毒にあたり、そのたびに茶の葉を用いて解毒したという話はお茶を知る上で重要です。

日本最古の喫茶記録は、「日本後記」にある「弘仁6年(815年)4月22日、僧・永忠が嵯峨天皇に茶を奉った」というものです。それが普及したのは右の表のとおりです。

【日本の茶の歴史】

1191年	栄西禅師が中国から茶の種子を持ち帰る
1214年	栄西禅師が将軍 源実朝に「喫茶養生記」とともに茶を献上
1522年	千利休生まれる(～1591年)
1738年	永谷式煎茶創製
1835年	玉露の発明
1858年	日米通商修好条約締結 日本茶が主要な輸出品となる
1924年	三浦政太郎が茶葉中からビタミンCを発見
1991年	緑茶ドリンクの流行

資料提供：鹿児島県茶業会議所

「茶飲ん話し」

①



お茶は私たち日本人に昔から飲まれていた最もなじみの深い飲み物です。南九州市は、茶の栽培に適した温暖な気候、立地条件を活かし、国内有数の緑茶産地です。お茶の魅力をさらに深めていただくためシリーズで紹介していきます。

川辺

1659年に生産が始まり、享保年間には薩州三ヶ寺・宝福寺で栽培された茶が江戸御用として献上され1896年には県内で最初に製茶機械を導入。(川辺郷土史より)

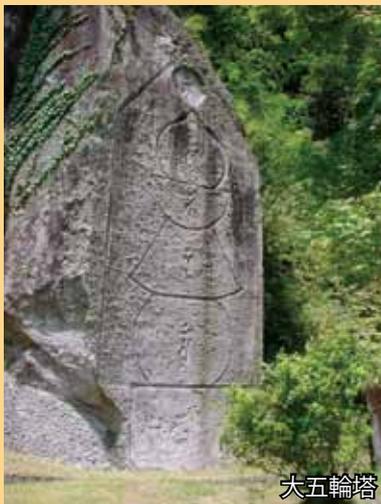
顚娃

1836年、上別府新牧の小磯與八・小磯助五郎、山下市左エ門が釘商の帰りに都城から茶の種子を持ち帰り、新牧の小和塚に播種したのが始まり。(顚娃町茶業振興会沿革史より)

知覧

平家落人が、知覧手蓑で茶栽培を始めたという言い伝えがあり、本格的に栽培が始まったのは島津氏の払下げの山野を1872年開墾した頃とされる。(知覧茶業史より)

※お茶の歴史は、川辺が古かったんですね。



大五輪塔



月輪大梵字



三大宝篋印塔

※上流側は落石の危険性があるため、対岸から見学できるようにしています。

岩屋公園内を流れる川沿いの高さ約20mの岩壁に、約400mにわたって約200基の磨崖仏が彫刻されています。
不吉の前触れと考えられていた月・日食や彗星などを仏の力で封じた月輪大梵字や、死後の世界に極楽浄土へ導かれることを願った五輪塔・宝篋印塔などがあります。

所在地：川辺町 清水
時代：平安末期～明治時代

清水磨崖仏 (県指定史跡)

知っていますか？ 指定文化財⑩